



受付第03A0410号
受付日：平成15年 5月12日

品質性能試験報告書

依頼者 株式会社 タナカ 住宅資材事業部

代表取締役 田 中 司 郎 様

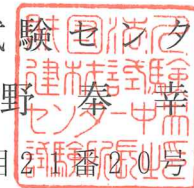
茨城県新治郡新治村大畑702-1

試験名称 枠組壁工法用接合金物の性能試験

標記試験結果は本報告のとおりであることを証明します。

平成15年 6月30日

財団法人 建材試験センター
中央試験所長 勝野 幸
埼玉県草加市稲荷5丁目2番10号



品質性能試験報告書

試験名称	枠組壁工法用接合金物の性能試験						
依頼者	株式会社タナカ住宅資材事業部						
試験項目	引張						
試験体 (依頼者 提出資料)	<p>1. 接合金物 商品名：ビス止めホールダウンU15kN用 用途：柱脚に使用する接合金物（アンカー型） 形状・寸法：幅40mm，長さ160mm，厚さ6mmの鋼板添え板にU形に折り曲げた厚さ4.5mmの鋼板を溶接したもの（図-3参照） 材質：SPHC（JIS G 3131） 表面処理：ダクロタイズド処理</p> <p>2. 接合具 木ねじ：TB-65，5-φ5.5×65mm（ねじ部の長さ53mm），谷の径；3.2mm ねじ山のピッチ；3.2mm，ねじ先の形状；とがり先，材質；SWCH 22K（JIS G 3539） 表面処理；ダクロタイズド処理 アンカーボルト：M16六角ボルト，材質；SS400（JIS G 3101） 表面処理；Ep-Fe/Zn 5/CM2 C（JIS H 8610及びJIS H 8625） 丸ワッシャー：外径32mm，内径17mm，厚さ2.8mm，材質；SPHC，表面処理；Ep-Fe/Zn 5/CM2 C</p> <p>3. 使用枠組材 たて枠：JAS規格の枠組壁工法構造用製材，樹種；S-P-F，区分；甲種，等級；2級，寸法形式；204D 含水率；9.5～12.6%，密度；0.46～0.51g/cm³</p> <p>4. 試験体数：7体（うち1体は予備試験体） 参照：図-1～図-4（試験体の形状・寸法）</p>						
試験方法	「2002年 枠組壁工法建築物構造計算指針」（監修／国土交通省住宅局建築指導課・木造住宅振興室，発行／社団法人日本ツーバイフォー建築協会）の第V編「材料および接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説」の1.2.3「接合部の基準許容応力および基準終局耐力並びに基準剛性（繰返し加力接合部試験によるもの）」に準じて行った。その詳細を表-1に示す。						
試験結果	試験体		試験許容応力時		試験終局耐力	終局変位	試験剛性
	記号	番号	(Py) kN	(δy) mm	(Pu) kN	(δu) mm	(K) kN/cm
	24BHU15	0	20.1	8.3	31.5	24.3	24.2
		1	20.2	7.1	30.4	24.9	28.5
		2	18.5	7.6	32.1	28.0	24.3
		3	17.7	6.6	29.3	30.0	26.8
		4	20.4	8.0	29.7	30.0	25.5
		5	20.0	7.6	31.4	26.4	26.3
		6	18.9	5.9	30.1	27.1	32.0
	平均	19.3	7.1	30.5	27.7	27.2	
標準偏差 s		1.08	0.77	1.06	2.03	2.72	
5%下限値		16.8		28.0		—	
基準値		基準許容応力 11.2	—	基準終局耐力 28.0	—	基準剛性 27.2	
(注) 基準許容応力は試験許容応力の5%下限値に2/3を乗じた値であり，基準終局耐力は試験終局耐力の5%下限値である。また，基準剛性は試験剛性の平均値である。 参照：表-2（2/3Pmax時，最大荷重時及び破壊状況），図-5（荷重-変位包絡線の比較） 図-6（荷重-変位曲線，包絡線及び完全弾塑性モデル），写真-1～写真-6（破壊状況）							
試験期間	平成15年 5月12日 ～ 13日						
担当者	構造グループ	試験監督者	橋本敏男	試験責任者	高橋大祐	試験実施者	室星啓和
試験場所	中央試験所						